株主のみなさまへ

2022年12月期 中間報告書
(2022年1月1日～2022年6月30日)
証券コード:2579

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。本年4月、当社は誕生5周年を迎えました。当社の製品をご愛飲いただいているお客さま、そして、事業活動を支えてくださっている株主さまをはじめとするステークホルダーのみなさまに心より感謝申し上げます。

当社を取り巻く環境は、この5年で急激にかつ大きく変化してきました。当社は足元の事業環境の変化に迅速に対応しながら、「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」というミッションに沿った事業活動を徹底しております。

上期の総括

本年上期(1月1日～6月30日)における国内清涼飲料市場は、新型コロナウイルス感染症による各種制約の緩和以降に人出が回復したことに加え、各地での早い梅雨明けや6月後半の猛暑の影響もあり、数量ベースで前年同期比4%程度増加したとみられます。一方で、新型コロナウイルス感染症への対応をきっかけとした消費者の購買行動の変化や厳しい競争環境の継続、原材料・資材・原油等の世界的な価格高騰、円安の急加速などから、当社の事業環境は不透明かつ厳しい状況で推移いたしました。

そのようななか、当社は人出回復の機会を捉え、効果的に新製品展開やキャンペーン実施などに取り組み、販売数量および売上収益の成長を図ってまいりました。また、外部環境の影響を受け増大するコスト負担への対応および収益基盤の強化策として、5月に大型PETボトル製品の価格改定を実施いたしました。供給ネットワークの強化に向けては、7月に国内最大級の保管・出荷能力を備える自動物流センター「明石メガDC」が本格的に稼働を開始いたしました。また、需要が急激に変動する環境下でも迅速かつ柔軟に対応できる基盤を構築し、安定した製品供給の実現につなげるべく、S&OP(Sales and Operations Planning)プロセスの刷新にも取り組みました。さらに、ESG(環境・社会・ガバナンス)領域での活動として、PETボトルにおけるサスティナブル素材の使用率向上やラベルレス製品のさらなる拡大等に継続して取り組んでまいりました。

上期の売上収益につきましては、販売数量が成長したことなどにより前年同期比1.8%増収の3,759億円となりました。価格改定直後の数量へのマイナス影響はあったものの、人出回復や消費者ニーズを捉えたチャネルごとの取り組みの効果により、販売数量は前年同期比4%増加いたしました。また、ベンディングなど収益性の高い即時消費チャネルの成長や、価格改定などによりケース当たり納価が改善傾向にあることなどが、売上収益の増加に貢献いたしました。

代表取締役社長
カリン・ドラガン

事業利益につきましては、数量成長やパッケージミックス改善、第2四半期(4月1日～6月30日)におけるケース当たり納価改善による利益貢献に加え、変革の推進などによるコスト削減の効果があったものの、原材料・資材・原油等の価格高騰や円安の影響、前年同期に実施した一時的なコスト削減の反動等が響き、前年同期比34億円減の182億円の損失となりました。親会社の所有者に帰属する当期利益につきましては、前年同期に子会社であったキューサイ(株)の株式譲渡益を非継続事業で計上していたことの反動から前年同期比95億円減少し99億円の損失となりました。

今後の見通し

本年下期(7月1日～12月31日)以降、原材料等の価格高騰や円安の進行がさらなるコスト負担となる見込みです。また、新型コロナウイルス感染症の動向や景気下振れリスクに対する消費者マインドなどにも注視が必要な状況です。引き続き不透明な状況やコストの増加が見込まれるなかではありますが、当社は人出回復の機会を捉えた活動の継続や、10月1日の小型パッケージ製品等の価格改定を予定どおり実施すること、継続的な変革の推進に加え、あらゆるコストのコントロールに努めることにより、5月に公表した通期事業利益目標の達成を目指してまいります。そして、これらの取り組みを通じて、持続的な成長に向けた強固な基盤の構築を図ってまいります。

株主還元について

配当につきましては、当社の基本方針である安定配当の考えに基づき、1株当たり中間配当金を前年並みの25円といたしました。期末配当金も1株当たり25円を予定しており、年間では1株当たり50円を見込んでおります。

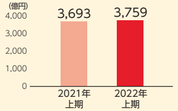
引き続き短期的な業績の厳しさが見込まれるものの、中長期の持続的な成長に向けた取り組みは順調に進捗しております。今後も、成長の機会を捉えた営業活動に努めるとともに、収益基盤の改善に向けた施策や変革の取り組みを力強く推し進めることにより、ステークホルダーのみなさまにとっての価値を創出し続けてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き当社へのご理解と長きにわたるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結決算ハイライト(IFRS)

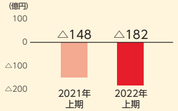
売上収益

3,759億円



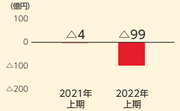
事業利益

△182億円



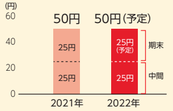
親会社の所有者に帰属する当期利益

△99億円



1株当たり配当金

50円(予定)



(注1)事業利益は、事業の経常的な業績をはかるための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

(注2)2021年の親会社の所有者に帰属する当期利益には非継続事業が含まれています。

会社概要・株式情報 (2022年6月30日現在)

会社概要

■商号	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.
■本社所在地	東京都港区赤坂九丁目7番1号 ミッドタウン・タワー
■設立	1960年12月20日
■資本金	152億3千2百万円
■連結従業員数	14,790名
■証券コード	2579
■発行可能株式総数	500,000千株
■発行済株式総数	206,269千株(議決権総数:1,785,565)
■株主数	75,803名(自己株式を除く議決権を有する株主数:59,465名)
■1単元の株式数	100株

取締役

代表取締役社長 **カリン・ドラガン**	代表取締役副社長 CFO **ビヨン・イヴァル・ウルゲネス**	社外取締役 独立役員 **吉岡 浩**
社外取締役 独立役員 **和田 浩子**	社外取締役 独立役員 **谷村 広和**	社外取締役(監査等委員) **イリアル・フィナン**
社外取締役(監査等委員) 独立役員 **行徳 セルソ**	社外取締役(監査等委員) 独立役員 **濱田 奈巳**	社外取締役(監査等委員) **バムシー・モハン・タティ**

株式の状況 (1単元:100株)

■大株主一覧

株主名	持株数(単元)	議決権比率(%)
日本コカ・コーラ株式会社	279,561	15.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	182,861	10.24
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	56,529	3.17
公益財団法人市村清新技術財団	52,947	2.97
薩摩酒造株式会社	47,361	2.65
株式会社千秋社	40,884	2.29
コカ・コーラ ホールディングズ・ウエストジャパン・インク	40,749	2.28
三菱重工機械システム株式会社	39,121	2.19
株式会社MCAホールディングス	34,075	1.91
東洋製罐グループホールディングス株式会社	30,066	1.68

■所有者別状況 (議決権の構成比)

区分	株主数(名)	持株数(単元)	議決権比率(%)
金融機関	42	345,430	19.35
証券会社	33	67,876	3.80
その他国内法人	703	660,321	36.98
外国法人等	418	425,297	23.82
個人その他	58,269	286,641	16.05

(注1)上記の「大株主一覧」および「所有者別状況」は、当社保有の自己株式269,265単元を除いて算出・表示しています。

(注2)ザ コカ・コーラ カンパニーが日本コカ・コーラ㈱およびコカ・コーラ ホールディングズ・ウエストジャパン・インク等子会社を通じて18.88%を保有しています。

株主メモ

■事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
■定時株主総会 毎年3月開催
■基準日 定時株主総会:毎年12月31日
期末配当金:毎年12月31日
中間配当金:毎年6月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
■公告の方法
電子公告により、当社ウェブサイトに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
当社ウェブサイト(電子公告):
https://www.ccbj-holdings.com/corporate/public_notice/

詳しくは当社ウェブサイトの「株式に関するお手続き」をご覧ください。
https://www.ccbj-holdings.com/ir/stockholder/procedure.php

IRサイトのご紹介

株主・投資家のみなさまへのビデオメッセージ、決算短信や有価証券報告書等の開示資料、アニュアルレビュー等のIRコミュニケーションツール、決算説明会のプレゼンテーション(資料およびウェブキャストアーカイブ)等、豊富なIR情報を掲載しています。また、メーリングリストにご登録いただいた方へ、決算発表やニュースリリースなどをタイムリーにお知らせしています。ぜひご覧ください。

詳しくは当社ウェブサイトの「IR・投資家情報」をご覧ください。
https://www.ccbj-holdings.com/ir/

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社
〒107-6211 東京都港区赤坂九丁目7番1号 ミッドタウン・タワー

本報告書は、環境保全のため、FSC®認証紙を使用して植物油インクで印刷しています。

サスティナビリティートピックス

日本のコカ・コーラシステムの環境目標「容器の2030年ビジョン」の達成に向け、「設計」「回収」「パートナー」の3つを柱とした活動を行っています。使用済みPETボトルから新しいPETボトルを生み出す「ボトルtoボトル」（水平リサイクル）などに取り組んでおり、2030年までにすべてのPETボトルを100%サスティナブル素材に切り替えることを目指しています。

■サスティナブル素材使用率

三菱地所との協業によりオフィスビルで「ボトルtoボトル」を推進

三菱地所㈱とともに、丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）のオフィスビルで「ボトルtoボトル」のしくみを構築しました。この連携により、同社が所有・管理するオフィスビル執務室内で回収されたPETボトルは再原料化され、当社製品の容器に生まれ変わります。専用のリサイクルボックスや啓発ポスターの設置等により、分別回収推進にも取り組んでいます。

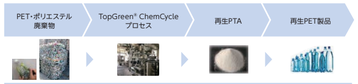
企業や地域などパートナーとの連携により、PETボトル循環利用へのさらなる貢献を目指してまいります。

ケミカルリサイクルを活用したリサイクルラベルを共同開発

2020年よりPETボトルの再生利用において協業している遠東新世紀㈱のケミカルリサイクル※1プロセス「TopGreen® ChemCycle」を活用し、使用済みラベル等から再生したPET樹脂を原料の一部に使用したシュリンクラベル※2を、㈱フジシールおよび東洋紡㈱と共同開発しました。今夏には、このリサイクルラベルを装着したPETボトル製品の試験販売を実施しています。

※1 回収された使用済みPETボトルを選別、粉砕、洗浄して異物を取り除いた後に、解重合を行うことによりPET樹脂の原料または中間原料まで分解、精製したものを重合して新たなPET樹脂とすること。

※2 熱を加えてPETボトルに密着させる方式のラベル。



担当者メッセージ Message

グローバル目標「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現に向けて、活動の柱のひとつである「設計」に関する取り組みで容器の100%サスティナブル化を推進しています。資源循環を実現するには、行政、流通、業界団体などの関係者、そして消費者のみなさまの協力が不可欠です。今後もより確実な容器回収と「ボトルtoボトル」などの水平リサイクル・資源循環に向け、リサイクルの啓発活動や関係者との協働を積極的に展開してまいります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
経営改革本部 サステナブルストラテジー部長　渡邉 真琴

そのほかのサスティナビリティー活動についてはCSVレポートをご覧ください。
https://www.ccbji.co.jp/csv/doc.php

新製品・キャンペーンの紹介

「コカ・コーラ」サマーキャンペーン「Coke×Music. 夏の魔法を刻め」

- 「コカ・コーラ」ならではのおいしさ・爽快感と「音楽」で夏を盛り上げる大型キャンペーン。
- 韓国の人気グループENHYPENによる限定スペシャルイベントやオリジナルのラジカセ型ミニスピーカーなどがその場で当たるプロモーションを実施。
- イギリスの伝説的なバンドQueenの代表曲を、各国の新進気鋭のアーティストたちがカバーしており、ラベルの二次元コードから参加した全員が、オリジナル音楽コンテンツ「Coke Studio」で聴くことができます。

エナジードリンク「リアルゴールド X」「リアルゴールド Y」

- X JAPANのYOSHIKIさんとのタッグにより、コンセプトの異なる2種類のエナジードリンクを同時発売。
- 「リアルゴールド X」はガラナ※ や独自のスパイスミックス※ を配合、「ロックの高揚感」をイメージした、強炭酸のはじける刺激が特長。
- 「リアルゴールド Y」はテアニンや独自のハーブミックス※ を配合、「クラシックの集中力」をイメージした、キレのある味わい。

※エキス

発売15周年の「綾鷹」新パッケージデザイン

- 2007年発売の「綾鷹」は、創業450年の歴史を誇る京都・宇治の老舗茶舗「上林春松本店」の協力のもと開発された、急須でいれたような本格的なお茶の味わいを目指す緑茶ブランド。
- より多くの人に「綾鷹」を味わっていただけるよう、「茶葉ひらく、香り立つ旨み。」をメッセージに、おいしさをより印象的に伝えるパッケージデザインに刷新。

「やかんの麦茶from一（はじめ）」夏のマイレージキャンペーン

- 過去10年間のコカ・コーラ社新製品のなかでも最速で、発売から累計出荷本数4億本突破※ を達成、幅広い世代の方にご好評いただいています。
- 麦茶の最盛期である夏に、食事をおいしく楽しむグッズ・逸品が必ずもらえるキャンペーンなどを大々的に実施。

※ 2021年4月26日～2022年6月24日（出荷ベース、日本コカ・コーラ㈱データ、650ml PET換算）

ノンアルコールブランド「よわない檸檬堂」

- 「檸檬堂」のレモンサワー作りの経験をもとに生まれた、コカ・コーラ社初のアルコール度数0.00%のノンアルコール製品。
- 厳選したレモン果汁とジンに使用するスパイスを使った独自のこだわり製法で本格的なレモンサワーテイストを実現。
- お酒を飲めない日だけでなく、飲まない日の新しい選択肢として多くの方にお楽しみいただけます。

自動販売機トピックス／ニュースカレンダー

コカ・コーラ公式アプリ「Coke ON」3,800万ダウンロード※を突破

「Coke ON」は、スタンプをためると無料ドリンクチケットが獲得できるなど、お得で便利なスマートフォンアプリです。スタンプをためると無料ドリンクチケットがもらえる基本サービスに加え、歩くだけでスタンプがたまる「Coke ON ウォーク」やキャッシュレス決済機能「Coke ON Pay」、サブスクリプション（定額）サービス「Coke ON Pass」などさまざまなサービスを展開しています。

このほかにも、特定の曜日・時間帯で購入するとスタンプが2倍もらえるキャンペーンや、クイズや間違い探しなどのチャレンジをクリアすることでスタンプがもらえる企画など、さまざまなキャンペーンを実施しています。今後も自動販売機の魅力を向上すべく、「Coke ON」を通じたサービスの充実を図ってまいります。

※2022年7月末現在

＼スマホで検索！／ コークオン

こちらから「Coke ON」をダウンロードいただけます

News Calendar

1月
- 「コカ・コーラ」やボトラー社の歴史を学べる「CCBJI ミュージアム」を多摩工場内にオープン
- 東京都三鷹市と「包括連携協定」を締結
- 森ビルなどと協業し六本木ヒルズでの「ボトルtoボトル」リサイクル実証実験に参画

2月
- 大型PETボトル製品の価格改定を発表（2022年5月1日出荷分より実施）
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同、TCFDコンソーシアムに参画
- **「よわない檸檬堂」**発売

3月
- 愛媛県と連携し、フードバンク団体への製品寄贈を開始
- **「檸檬堂 無糖レモン」「檸檬堂 うま塩レモン」**発売

4月
- ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に選定
- 埼玉県吉見町と「包括連携に関する協定」を締結
- 経済産業省公表のカーボンニュートラル実現に向けた「GX（グリーントランスフォーメーション）リーグ基本構想」への賛同
- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマ事業「シグネチャーパビリオン」へゴールドパートナーとして協賛
- 東京都と「東京グリーンシップ・アクションに関する協定」を締結
- **「綾鷹カフェ ほうじ茶ラテ」**発売
- **「ファンタ プレミアレモン」**発売
- **「い・ろ・は・す 塩とれもん」**発売

5月
- ケミカルリサイクルによる再生PET原料を使用したシュリンクラベルを開発
- 自動物流センター「明石メガDC」竣工（7月より本格稼働）
- **「リアルゴールド X」「リアルゴールド Y」**発売
- **「コスタコーヒー アーモンド ラテ」**発売

6月
- 小型パッケージ製品等の価格改定を発表（2022年10月1日出荷分より実施予定）
- 三菱地所と協業し、オフィスビルでの「ボトルtoボトル」の取り組みを実施
- 「子ども食堂応援自販機」を愛知県内で展開
- 最新の「アニュアルレビュー」および「CSVレポート」を発行
- **「コカ・コーラ ゼロシュガーレモン」**発売
- **「ジョージア ジャパンクラフトマン ホワイトモカ」**発売
- **「ファンタ 青春スウィーティー」**発売

アニュアルレビュー CSVレポートはこちら ▶ アニュアルレビュー　CSVレポート

詳しくは当社ウェブサイトの「ニュース」をご覧ください。
https://www.ccbji.co.jp/news/